

pon

kanpi-sos

# ポン カンピソシ



# 5

アイヌ文化紹介小冊子



祈る



## 本書のねらい

北海道立アイヌ民族文化研究センターでは、国連の定めた「世界の先住民の国際10年」への取り組みの一環として、1995(平成7)年度より、アイヌ文化を紹介する小冊子を毎年1冊ずつ刊行しています。

これまでに、第1冊目に「言葉」を、第2、3、4冊目ではそれぞれ「衣」、「食」、「住」を紹介してきました。

第5冊目では「イノミ」と題して、信仰についてとりあげました。神に対する考え方や神と人間との関係、先祖に対する考え方などについて説明しています。さらに、アイヌの信仰について学ぶための文献などを紹介しています。

ポン カンピ ソシ  
pon kanpi - sos 小冊子  
小さい 紙 束

イノミ  
inomi お祈りする、お祭りする

## 目次

[1] アイヌの信仰のあらまし	2
1 アイヌの信仰	2
2 様々なカムイ	8
3 カムイを送る	13
4 先祖に対する考え方	16
[2] いろいろな儀式	18
1 カムイに祈ること	18
2 いろいろな祈りごと	26
[3] 信仰について学ぶために	29
1 博物館など	29
2 文献など	30

# [ 1 ] アイヌの信仰のあらまし

## 1 アイヌの信仰

アイヌの信仰は、どのような考えにもとづいていたのでしょうか。

アイヌの信仰では、あらゆるものには“魂”が宿っていると考えられました。なかでも、植物や動物など人間に自然の恵みを与えてくれるもの、火や水、生活用具など人間が生きていくのに欠かせないもの、あるいは天候など人間の力の及ばないものなどをカムイとして敬<sup>うやま</sup>いました。

そして、この世界は人間とカムイとがお互いに関わりあい影響を及ぼしあって成り立っているものだと考えられていました。

## 1. Ainu Religion

What is the basis of the Ainu religion?

Ainu beliefs hold that everything is endowed with a spirit. These beliefs hold respect for *Kamuy* including plants and animals which give of themselves for human use, fire, water, daily living implements, etc., and forces beyond human control, such as the weather.

It is also believed that these interactions between humans and *Kamuy* are the basis of this world.

## Outline of Ainu Religion

このような考え方は、自然との関わりを深く持っていた昔の暮らしにとっては、生活に必要なものを手に入れたり使いこなしたりするための知識やしきたり、あるいは天災や病気への心構えなどを表すものでした。

「カムイ」というアイヌ語は、日本語では「神」などと訳されることが多いようです。けれども「カムイ」という言葉は、日本語の「神」や「仏」などとは、ある程度意味の重なる部分もありますが、一致するものではありません。

そこで、この小冊子では「カムイ」というアイヌ語を用いることにします。

It is tremendously difficult to translate the Ainu word *Kamuy*. None of the usual renderings "gods", "spirits", "deities", and the Japanese "Kami (gods)" captures its meaning. Therefore, in this brochure the word is left untranslated.

---

ここ100年あまりの間に、アイヌの信仰をめぐる環境も大きく変化しました。それは、周辺の他の民族や社会と同じように、近代化の中で人々の生活様式が変化し、自然環境との関わり方も変わったことなどによりますが、アイヌの場合は、明治時代以降の同化主義のもとで、アイヌの伝統文化を否定する風潮が強まったことや、伝統的な儀式を行なう機会が減ったりしたこともその一因です。

そうした中でも、折りにふれて普通りの儀式を行っていた人、カムイへの祈りの言葉やしきたりなどを記録した人、あるいは昔ながらのしきたりや考え方を暮らしのよりどころとして生活してきた人などは少なくありませんでした。



写真1 鍋沢元蔵さんが記録したノートをもとに1966年に刊行された『アイヌの祈詞』(門別町郷土史研究会)

For the past century, the environment surrounding Ainu religion has undergone dramatic changes, as is the case in other ethnic groups in surrounding areas. Policies of assimilation since the Meiji era have led to less value being placed on the Ainu traditional culture and have lessened the opportunities to engage in rituals.

However, some people continue to conduct customs in the traditional manner; others record prayers to *Kamuy*; still others actively follow their traditional customs and beliefs.

---

現代では、日本に住んでいる他の多くの人々と同じように、アイヌも一人ひとりが様々な信仰観を持って生活しています。

一方で、今日のアイヌ文化の復興・継承の動きともあいまって、アイヌの精神文化についても関心が高まり、近年、各地でアイヌ独自の信仰や儀礼を学ぶ動きが見られたり、昔の儀式が復活したり、あるいは新たに創造されたりしています。

この小冊子では、アイヌの信仰について、明治から昭和初期に生まれ育った人たちが伝統的なこととして意識してきたことを中心に説明します。



写真2 北海道ウタリ協会登別支部の人たちによって復活した儀式の様子  
(第5回・1991年)

Today, as in Japanese society at large, Ainu live their lives according to various religious beliefs. Still, with the recent movement to restore and preserve Ainu culture, interest in Ainu spiritual culture has increased.

In recent years, Ainu beliefs and rituals have been taught in various places. Some traditional rituals have been restored, some created.

This brochure describes traditions as understood by people born and raised between the Meiji era and the early Showa era.

## アイヌの信仰についての昔の記録

アイヌの信仰の歴史について、これまでにどのようなことがわかっているのでしょうか。

今から200～300年ほど昔の文献には、現代のアイヌが行なっている儀式とほぼ同じような儀式の様子が描かれていたり、信仰に関係するアイヌ語が記録されたりしています。

さらに古い時代のことは、文献の中に信仰に関係する記録が見られたり、遺跡から祭具が発掘されたりしていますが、まだはっきりしたことはわかっていません。

また周辺の民族の儀礼に互いに共通する点があることから、周囲の地域と影響を及ぼしあってきたことも指摘されていますが、似たような要素があるという以上に十分な根拠が示されているものではありません。アイヌの信仰も、世界の他の民族と同じように長い年月を経て今日に至ったものだと思われませんが、その成り立ちや時代ごとの変化などについては未解決なままといえます。



写真3 上ノ国町の遺跡から発掘された祭具（23ページ参照）

---

アイヌの信仰には、決まった教義や教典があるわけではありません。儀式の作法やカムイに対する意識などには、多くの地域で共通してみられる決まりごとや考え方がある一方で、地域ごとに、あるいは人によって異なる点もあります。

また、どの民族の伝統文化についてもありえることですが、みだりに人に話したり聞いたりしてはならないことや、その人の年齢や性別、立場によってそれぞれに、ふるまいや関心の持ち方を慎むべきことがあったりします。

In many regions, the manner in which rituals are conducted and awareness of *Kamuy* are similar, but there are variations to this in some regions and among individuals. Ainu consider it sacrilegious to talk about religion, or to listen to someone talk about it. Certain behaviors are proscribed, depending on a person's age, gender and status.

---

## 2 様々なカムイ

どのようなものをカムイと考えるかは、地域や個人によって様々です。大まかには火や水、太陽や月、動物や植物などのほか、地震や雷などの自然現象や病気もカムイであったり、カムイが引き起こしたこととして考えられました。

また、このような自然のものばかりでなく、人間の手で作られた舟や炉鉤、臼や杵などの道具類もカムイであるといわれています。

カムイたちは、いつもはカムイの世界で人間と同じような姿で暮らしており、彫刻や刺しゅうなどの手仕事をしたり、結婚して家族を持ったりしながら、仲間たちと一緒に暮らしているといわれています。



写真4 クマ

### 2. Various kinds of *Kamuy*

Ideas of *Kamuy* vary with regions and individuals. It has been commonly said that *Kamuy* are fire, water, sun, moon, animals and plants. Some *Kamuy* are thought to cause disease, earthquakes, thunder and other natural phenomena.

In addition to these naturally occurring *Kamuy*, man-made implements –boats, hearth hooks, mortar and mallet–are believed to be *Kamuy*.

When *Kamuy* inhabit their own world, they take human form.

---

カムイは人間と同じように様々な個性と喜怒哀楽きどあいらくの感情を持ち、人間に対して良い行ないをするものばかりでなく、悪いことをするものもいると考えられています。

カムイは、何らかの役割を担ったり、遊びに行きなくなったりして、カムイの世界から人間の世界へやって来ます。そのときに動物や植物、あるいは道具や自然の現象などに姿を変えるのだといわれています。



写真5 キツネ

*Kamuy* have emotions and individual characters as well as humans do. Some are believed to act favorably toward humans, others unfavorably.

*Kamuy* come to human world when they have some roles and wishes to play. At such times, they dress according to the role they wish to play. For example, the Bear-*Kamuy* put on a bearskin.

## 人間の生活に役立つカムイ

カムイとは人間にとって、どのような存在なのでしょう。

動物の肉は食料になり、毛皮は衣服になったりします。また植物は食料や薬となるほか、道具を作る材料になったり、その繊維が衣服の材料になったりするものもあります。

このようにカムイには人間の生活に必要なものや便利なものを与えてくれたりするものがあります。



写真6 樹皮をはぐ様子

### *Kamuy* beneficial to humans

It is believed that some *Kamuy* provide humans with necessities for life and offer conveniences. Animals provide meat for food and fur for clothing. Plants serve as food, provide medicines, and are used to make tools and fabric.

人間が無事に暮らせるように守ってくれたり、人間の力だけでは足りないところを補ってくれたりするカムイもいます。

火のカムイは、大切に身近なカムイとされています。火は人間に温もりや灯り<sup>あか</sup>を与え、その熱で煮炊きをさせてくれるばかりでなく、人間の訴えや願いを聞き入れて他のカムイへ伝えてくれます。もし、人間の祈り言葉に足りないところがあれば、それをうまく補う役目も果たしてくれます。

シマフクロウは、村を見守る役目があるカムイとされ、アイヌの人々からとても尊敬されています。

植物のカムイには、魔物を近づけない力を持つものがあります。



写真7 炉で燃える火



写真8 シマフクロウ

Some *Kamuy* protect humans, so that they can live in safety. Other *Kamuy* offer assistance beyond human ability.

---

## 恐ろしいカムイ

人間の世界へは、恵みを与えてくれる良いカムイばかりでなく、人間が太刀打ちできない恐ろしい力を持ったカムイもやって来ます。人間の命を奪ってしまうような天然痘ねんとうなどのカムイは、人間の村に病気を流行らせることを目的にやって来て、その使命を果たさないうちはカムイの世界へ帰らないといわれています。また、暴風雨や雷なども大きな破壊力を持っており、人間が畏れ敬おそ うやまって接しなければならないカムイたちであるといわれています。

このような恐ろしいカムイに対しては、早くここから立ち去ってほしいと祈ったり、みだりに自分の村を襲わないよう願ったりしました。

### *Kamuy with evil spirits*

In Ainu beliefs, there are *Kamuy* with good spirits and *Kamuy* with evil spirits. The purpose for which the Smallpox-*Kamuy* comes to human world is to spread the disease, and until the mission has been fulfilled, the *Kamuy* can not go back to their world. Storm and thunder can bring catastrophe, so humans treat them as *Kamuy* with veneration. Therefore, Ainu pray that these *Kamuy* may leave quickly.

### 3 カムイを送る

人間の世界での役目を果たしたカムイは、いずれ家族や仲間が待っているカムイの世界へ帰ることになります。その際、人間は、自分たちの生活に必要なカムイたちが再びやって来ることを願い、カムイが喜ぶとされる木幣（もくへい22ページ参照）や酒、団子や干したサケなどの食べ物と一緒に感謝の祈り言葉を捧げてきました。

それらを受け取ったカムイは、その家族や仲間に対して人間に親切にされた体験を聞かせます。そうすることで、そのカムイはもとより、他のカムイたちもきちんとした礼儀を持って祭ってくれる人間のところへ遊びに行きたくなると考えられています。

このように丁寧（ていねい）に送られて祭られたカムイは、さらに立派なカムイになり、仲間たちからも尊敬されるのだといわれます。

人間が動物などを捕らえて肉や毛皮を手に入れるのは、その動物の命を奪うこととなりますが、それは肉体から“魂”を解き放つことでも考えられました。人間はその肉体を受け取り、“魂”をカムイの世界へ送り帰すこととなります。



写真9 カムイを送る儀式に供えられたごちそう

### 3. Sending *Kamuy* back to their world

*Kamuy* return to their world when their missions are completed. At that time, humans pray for beneficial *Kamuy* to visit again and send them back to their world by addressing gratitude and offerings.

## 口頭文芸に語られるカムイ

アイヌの信仰観をうかがうことのできる資料のひとつに、アイヌの人々が伝承してきた口頭文芸があります。

アイヌの口頭文芸の内容や語られ方は様々ですが、ここでは、カムイがカムイの世界や人間の世界で体験した自分の身の上を物語るという形をとるものの中から、人間の世界へやって来たシマフクロウのカムイが物語るものの一場面を紹介します。

私が人間の村の上を通りかかると、子供たちが弓に矢をつがえて私をねらっていました。見ると、その中に立派な人の子孫らしい子供がいます。身なりはあまりよくないのですが、品格のある子で、私をねらっています。私は美しく飛んできたその子の矢を受け取ってやり、ひんきやく賓客としてその家に招かれ、ていねい丁寧な接待を受けてカムイの世界に送ってもらいました。

人間が祝い事などでお酒を造ったときは、木幣や酒を私に送ってくれるので、私も人間たちの村を見守っているのです。

\*上の文は『アイヌ神謡集』に載っている物語を、当センターで要約したものです。

紹介した場面には、人間がシマフクロウを射止めてからその“魂”をカムイの世界に送り返した後の様子までが描かれています。

矢が当たるシーンでは、カムイが自らすすんで当たったように語っています。またカムイがどのような人間の矢を受けるのかということや、人間がカムイへ敬意を払いつつけることで村の安全が守られるという考えなども読み取ることができます。

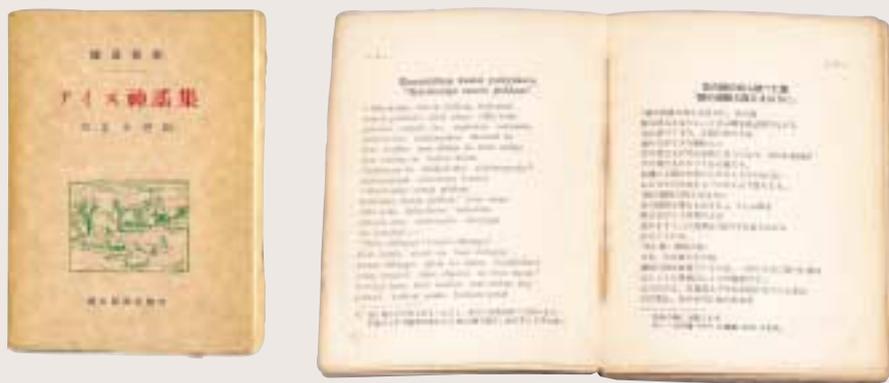


写真 10 1923年に刊行された知里幸恵編『アイヌ神謡集』（郷土研究社）

---

## 4 先祖に対する考え方

### 死んだ人のいくところ

アイヌの人々は、人間が亡くなった後は「死後の世界」へ行くと考えました。

そこでは、亡くなった人たちが生前と同じように村を作って、生活しているといわれています。その一方で、あの世の様子などはあまりよくわからないのだという人もいます。



写真11 「死後の世界」の入り口といわれた洞穴のひとつ（白老町）

## 4. Beliefs in ancestors

### The afterlife

In Ainu beliefs the deceased go to "the world after this world", where they make villages as they did in life. While some others say that the details of the afterlife are not so clearly known.

---

## 先祖に対する意識のあり方

「死後の世界」で暮らす人々は、子孫から送られる酒やタバコや料理などの供物を受け取ることで、豊かな生活を送ることができると考えられています。

人が亡くなったときは、その人が「死後の世界」での暮らしに使うための衣服、道具、家などを傷つけたり燃やしたりしました。そうすることで、それらは「死後の世界」へ送ることができると考えられました。

先祖の供養は、家の中やその周囲で行なうので、墓参りという習慣はありませんでした。

Regarding ancestors

Offerings of liquor, tobacco, and prepared foods etc. are given to ancestors. It is believed that by giving these things the ancestors' lives will be enriched in "the world after this world".

# [2] いろいろな儀式

## 1 カムイに祈ること

カムイへの頼みごとやお礼など、人間から伝えたいことがあるときにカムイに対する祈りを行ないます。

これらの祈りは、ちょっとした頼みごとから集落全体の安全などを祈るものまで、様々な形で行なわれます。また、日常生活のいろいろな場面で行なうもの、舟を作ったり家を建てるなど大切なことがらの際に行なうもの、あるいは豊漁の祈願やそのことに対する感謝のように行なう時期が一年の中である程度定まっているものがあります。



写真 12  
さいだん  
祭壇で祈る男性

### 1. Praying to *Kamuy*

Whenever Ainu wish to convey something to *Kamuy*, such as requests or thanks, they pray. Prayers are a part of regular life and also use on special occasions, such as the building of a boat or a house. Some prayers are for particular seasons, such as those for big fish catches.

## A Variety of Rituals

カムイに祈る儀式のときには、年齢や性別によって、その儀式の中での役割が決まっていたり、制限されていたりすることがあります。

男性には、カムイへ捧げるための木幣を削って祭壇<sup>さいだん</sup>を作ったり、祈り言葉を唱える役目があります。特に大切なカムイへの祈りには、十分に経験を積み、しきたりをよく知っている人でなければ執り行なえないものがあります。

女性はカムイへ捧げるための酒や料理を準備します。酒を汲んだり注いだりするにも作法があり、しっかりとした振る舞いのできる女性とその役にあたりました。



写真 13 木幣を作る



写真 14 酒を作る

When Ainu conduct prayers or rites, their roles are assigned or limited, depending on their age and sex.

---

## 祈るところ

カムイに祈る儀式を行なう場所は、それぞれのカムイや、祈りをする理由などによって異なります。普段の暮らしの中での祈りは、家の中の炉端<sup>ろばた</sup>で行ないますが、必要に応じてそのカムイのそばへ行って祈る場合もありました。外にいて何か危険が迫ったことを感じたときなどは、その場で近くの立ち木のカムイや川のカムイへ助けを求めたりするようなこともあります。

比較的に重要な儀式のときには、家から少し離れた場所に設けた祭壇へ行き、祭るカムイに新しい木幣を捧げて祈りました。祭壇は家ごとに設けることもあれば、川辺や浜辺、山などにその集落の祭壇を設けて、祈る場所を決めておく場合がありました。ただし、社<sup>やしろ</sup>や教会のような建物を作ることはありませんでした。

### Places to pray

The places to pray vary depending on the *Kamuy* appealed to and the purpose for the prayer. The prayers and rituals are usually conducted around the hearth. And in case of necessity some rituals are held at an alter outside.

---

大きな儀式では、性別や年齢、知識や経験の違いなどにより、家の中や祭壇の前での席が決められていました。同じような目的で行なう儀式であっても、それぞれの地域や人ごとに多少の違いが見られるようです。



写真 15 祭壇(白老町：大正から昭和の初めころ)

## 祭具

カムイへ祈るときには、これまで紹介してきた写真に見られるような様々な祭具が使われます。用いる祭具の種類や大きさ、アイヌ語の名前などには祈りの内容や地域によって差があります。ここではそれらの中から、比較的重要とされたり、博物館などで展示されることの多いものを紹介します。

木幣は、ヤナギやミズキなどを切って皮をはいだものの外側を削って房のようにしたものです。様々な形状のものがあり、神へ捧げたり、魔ものを払うときに使ったり、その木幣の本体を「家を守るカムイ」として祭ったりと、いろいろな用途があります。

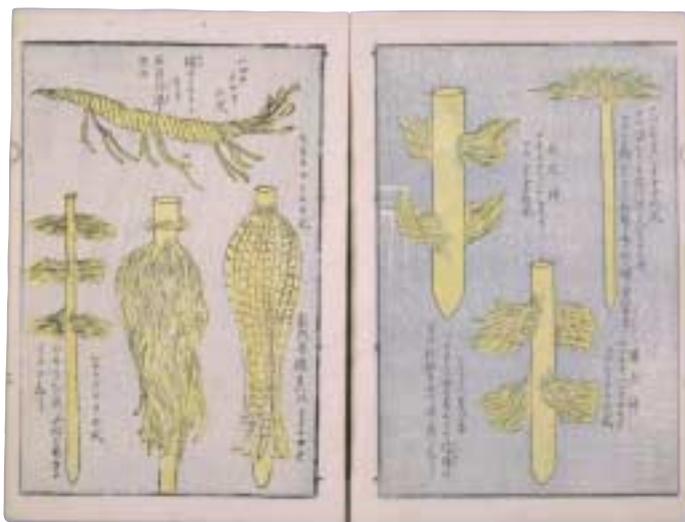


写真 16 いろいろな木幣

### Ritual utensils

A variety of utensils are used in Ainu rituals. These photographs show some examples.

---

彫刻が施されたへら状のものは、カムイや先祖へ酒を捧げるために作りました。へらの先端を酒につけ、その滴を火のカムイや木幣などにふりかけます。



写真 17 酒を捧げるためのへら

カムイに捧げる酒を入れる椀は、食事用の椀と区別して用いられました。写真18は、椀を台に乗せ、その上に酒を捧げるためのへらを置いた状態です。



写真 18

Photo 16: The sacred sticks are decorated with shavings. They have various uses :to offer to *Kamuy* and to exorcise evil spirits. And also sticks themselves are *Kamuy*.

Photo 17: sticks to offer liquor to ancestors and *Kamuy*

Photo 18: bowls for sacred liquor

## 祈るときの手順

カムイへ祈る儀式の手順や作法も地域や個人によって様々ですが、ここでは、静内町の葛野辰次郎さんが執り行なった儀式の流れを見てみましょう。



写真19 ヤナギ  
木幣にするための木を選び、必要な分を切ってきます。

A ritual being conducted by an elderly man.

写真 20

儀式の当日、木幣を削り、炉や家の外に設けた祭壇に木幣を立ててから火のカムイへ祈ります。



写真 21

外に出て、祭壇の前でいろいろなカムイへ祈ります。

写真 22

炉の前にもどり、火のカムイへ感謝の言葉を唱え、最後に火のカムイへ木幣を捧げます。



## 2 いろいろな祈りごと

カムイへの祈りは、いろいろな目的のもとに行なわれます。ここでは、そのいくつかの儀礼をとりあげます。

### クマのカムイを送る儀式

クマのカムイの“魂”は、山で獲った人がその場で、あるいは仕留めたクマを村へ運んでから皆で送ったりしました。初春に冬眠中の親グマを獲ったとき、その巣穴に仔グマがいた場合にはその仔グマを生け捕りにして、村で2年ほど飼いで育ててからカムイの世界へ送る儀式を行なうことがあります。



写真23 『蝦夷島奇観』に描かれたクマを送る儀式の様子

## 2. Various prayers

The rituals sending Bear-Kamuy to their world

Ainu return the souls of captured bears and those raised in the village back to the Kamuy world. Rites for the latter have special importance and are regarded as particularly important sending back

---

村の人々が大切に仔グマを育て、たくさんの土産を持たせてカムイの世界へ送り帰すことで、それに感謝したクマのカムイが再び人間の世界へ訪れることを期待したものです。このような儀式は、カムイの“魂”を送る儀式の中でも特に重要な儀式とされ、近隣の村から大勢の人を招いて盛大に行ないます。

このようなクマを送る儀式について、「何かに捧げる“いけにえ”としてクマを殺している」と説明されていることがありますが、決してそのように考えられていたわけではありません。

### サケを迎える儀式

サケの漁期が始まる前にその年が豊漁になることを祈り、漁期の終り頃には豊漁だったことを感謝する祈りをします。



写真24 そじょう 遡上するサケ

ceremonies. Many people are invited from neighboring villages.

The ritual welcoming salmon

Before the fishing season for salmon, Ainu pray for a big catch and at the end of the season they offer their gratitude for the catch.

## 伝染病のカムイを避ける祈り

伝染病が流行りそうなときや流行ったときには、臭いの強い植物を家の戸口や窓、庭先などに置いたりして、伝染病のカムイがよその土地へ行ってくれるように祈ります。



写真25 ギョウジャニンニク

## 先祖供養の儀式

先祖の暮らす「死後の世界」へ供物を届けてもらえるよう火のカムイに頼みます。お菓子や果物は砕いたり割ったりして供え、タバコもちぎって撒きます。このとき、自分の名前や先祖の一人ひとりの名前をはっきり口に出さないと、供物はきちんと届かないともいわれています。



写真26 先祖供養する女性

A Prayer to ward off the Epidemic-Kamuy

By putting herbs with strong odor at a front door and windows, Ainu pray that the Epidemic-Kamuy may stay away.

Rituals for ancestors

# [ 3 ] 信仰について学ぶために

## 1 博物館など

アイヌの信仰に関わる祭具などが展示されている博物館は道内を中心にいくつかあります。ここでは、それらの中から比較的まとまった量の展示があったり、貴重な資料を展示している施設を紹介します。

### 道内

旭川市博物館	旭川市神楽	0166-69-2004
帯広百年記念館	帯広市緑ヶ丘	0155-24-5352
北海道開拓記念館	札幌市厚別区	011-898-0456
北海道立ウタリ総合センター	札幌市中央区 かでる 2・7	011-221-0462
北海道大学農学部附属博物館	札幌市中央区 北海道大学農学部附属植物園	011-251-8010
苫小牧市博物館	苫小牧市末広町	0144-35-2550
静内町アイヌ民俗資料館	静内町真歌	01464-3-3094
萱野茂二風谷アイヌ資料館	平取町二風谷	01457-2-3215
平取町立二風谷アイヌ文化博物館	平取町二風谷	01457-2-2892
財団法人アイヌ民族博物館	白老町若草町	0144-82-3914
函館市北方民族資料館	函館市末広町	0138-22-4128
北海道立北方民族博物館	網走市潮見	0152-45-3888

### 道外

東京国立博物館	東京都台東区上野公園	03-3822-1111
国立民族学博物館	大阪府吹田市千里万博公園	06-6876-2151
天理大学附属天理参考館	奈良県天理市布留町	0743-63-1515

## 2 文献など

アイヌの信仰について学ぶことのできる文献とビデオの紹介です。現在も書店などで市販されているものには価格を記しました。

### 概説書・研究書

財団法人アイヌ民族博物館(監修)『アイヌ文化の基礎知識』草風館 1993年 1,680円  
札幌学院大学人文学部(編)『アイヌ文化に学ぶ 公開講座 北海道文化論』札幌学院大学  
人文学会 1990年 1,900円

\* 静内町出身の葛野辰次郎さんがカムイとアイヌの関係や祈り言葉について述べています。別売りのカセットテープ(1,300円)でアイヌ語の祈り言葉を聞くことができます。

中川裕『アイヌの物語世界』平凡社 1997年 932円

\* アイヌの口承文芸の概説書で、物語に登場するカムイについてわかりやすく解説されています。

北の生活文庫企画編集会議(編)『北の生活文庫 第2巻 北海道の自然と暮らし』北海道新聞社 1997年 1,995円

### ビデオ

『アイヌ文化を学ぶ THE CULTURE OF AINU』VHSビデオ(日英2か国語版)財団法人アイヌ無形文化伝承保存会 1997年 4,500円

\* 信仰のほか口頭文芸、衣服、食べもの、住まいなどアイヌ文化の概要に関する入門的な内容のビデオです。簡潔な解説書が付いています。



『アイヌ文化伝承記録ビデオ大全集』VHSビデオ 財団法人アイヌ無形文化伝承保存会  
\*1976(昭和51)年から毎年度1巻ずつ制作され、5巻ごとにまとめて販売されています。この中に信仰に関して『フチとエカシを訪ねて1 祈り・語り・食』などがあります。

### その他本書を書くにあたっての参考文献

- 久保寺逸彦『アイヌ叙事詩 神謡・聖伝の研究』岩波書店 1977年  
久保寺逸彦「沙流アイヌのイナウに就いて」金田一博士米寿記念論集編集委員会『金田一博士米寿記念論集』三省堂 1971年  
財団法人アイヌ民族博物館(編)『イヨマンテ - 熊の霊送り - 報告書』財団法人アイヌ民族博物館 1990年  
財団法人アイヌ民族博物館(編)『イヨマンテ - 熊の霊送り - 報告書』財団法人アイヌ民族博物館 1991年  
静内町教育委員会(編)『静内町アイヌ民俗資料館』静内町 1984年(1997年より改訂版『静内地方のアイヌ文化』)  
知里真志保『知里真志保著作集 第1巻』平凡社 1973年  
知里真志保『知里真志保著作集 第2巻』平凡社 1973年  
知里真志保『知里真志保著作集 別巻 分類アイヌ語辞典 植物編・動物編』平凡社 1976年  
知里真志保『知里真志保著作集 別巻 分類アイヌ語辞典 人間編』平凡社 1976年  
名取武光『アイヌと考古学(一) 名取武光著作集』北海道出版企画センター 1972年  
名取武光『アイヌと考古学(二) 名取武光著作集』北海道出版企画センター 1974年  
中川裕『アイヌ語をフィールドワークする』大修館書店 1995年  
北の生活文庫企画編集会議(編)『北の生活文庫 第4巻 北海道の家族と人の一生』北海道新聞社 1998年  
北海道教育庁社会教育部文化課 / 北海道教育庁生涯学習部文化課(編)『アイヌ民俗文化財調査報告書(アイヌ民俗調査)』1~18 北海道教育委員会 1982~1999年  
アイヌ文化保存対策協議会『アイヌ民族誌』第一法規出版 1969年  
奥田統己「カムイ」石井米雄・千野栄一(編)『世界のことば100語辞典 アジア編』三省堂 1999年

---

協力（敬称略）

上ノ国町教育委員会 葛野辰次郎 財団法人アイヌ民族博物館  
静内町アイヌ民俗資料館 社団法人北海道ウタリ協会登別支部  
萩中美枝 村岡優美

写真提供、出典等

表紙：後藤昌美

写真1：門別町郷土史研究会編『アイヌの祈詞』門別町郷土史研究会 1966年

写真2：社団法人北海道ウタリ協会登別支部

写真3：上ノ国町教育委員会

写真4：山本盛雄

写真5：塩谷秀和

写真6, 16：松浦武四郎『蝦夷漫画』（児玉マリ 所蔵）

写真7, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 18, 24：財団法人アイヌ民族博物館

写真8：松野有秀

写真10：知里幸恵編『アイヌ神謡集』郷土研究社 1923年

写真17：ロシア科学アカデミー人類学民族学博物館資料

写真19：当センター

写真20, 21, 22, 25, 26：静内町アイヌ民俗資料館

写真23：秦檜磨『蝦夷島奇観』（復刻版 佐々木利和、谷澤尚一研究解説）雄峰社 1982年



発行

平成11年11月

編集

北海道立アイヌ民族文化研究センター

HOKKAIDO AINU CULTURE RESEARCH CENTER

〒060-0001 札幌市中央区北1条西7丁目 プレスト1・7 5階

TEL.011-272-8801



美瑛 / 朝霧の丘